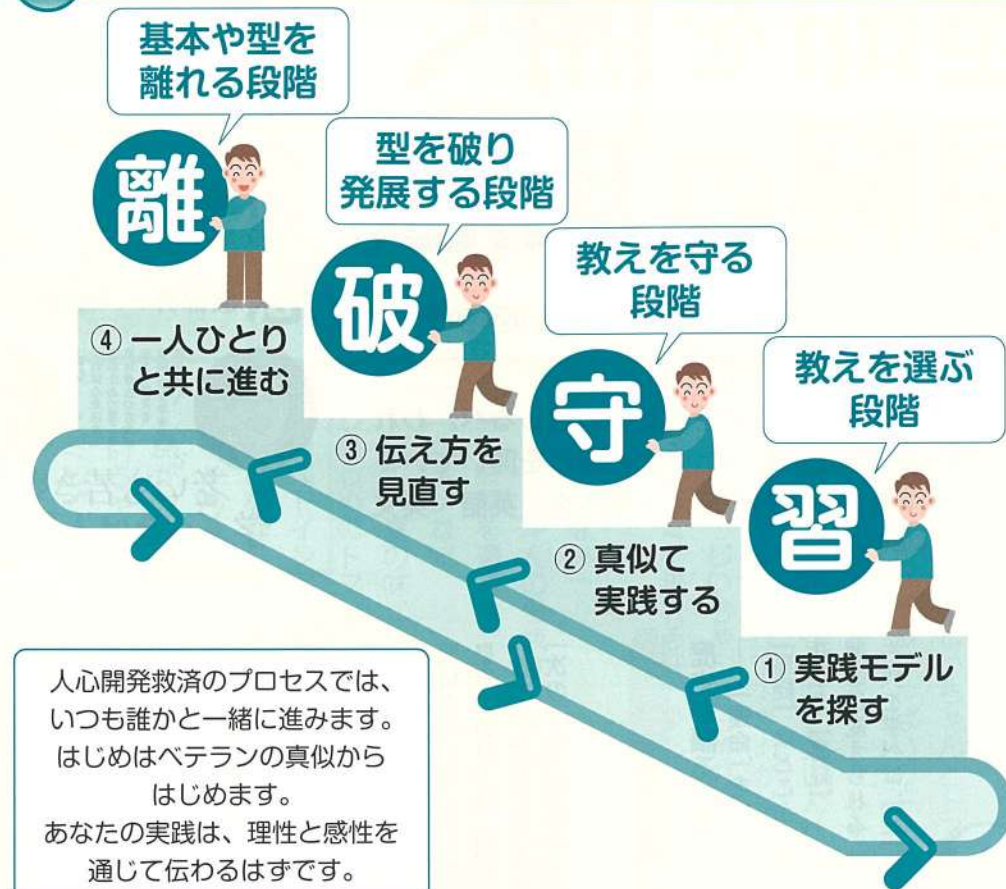


図30

人心開発救済の四段階



今月の範囲

第二部 実践編
第九章 人心の開発救済
二、人心開発救済の方法

モラロジー研究所の概論講座で使用される改訂『テキスト モラロジー概論』について、今月は第九章の二、「人心開発救済の方法」を図解します。



モラロジーを楽しく、平易に学びたい——。そんな要望にお応えして、この連載では改訂『テキスト モラロジー概論』の内容を図で解説します。ご自身の学習に、あるいは勉強会の資料としてご活用ください。

構成＝「れいろう」編集部

真似て学ぶ、人心開発救済の方法

——いつも一緒に進みながら

きのしたじょうこう
研究センター教育研究室 木下城康

モラロジーの学びは座学だけでは終わりません。実践の力は人を育てる過程で培われます。今号は剣道や茶道などの修行段階で知られている「守破離」に置き換えて考えます。図をご覧ください。

第一段階 実践モデルを探す

まずは自分にとっての具体的な行動や考え方の模範になる人を探します。私たちは実践モデルを自由に選ぶことができます。ですから、会社であれば上司や先輩、同僚など周りを見渡してモデルを探してみましよう。初めは「習う」段階です。

第二段階 真似て実践する

模範とする人の姿を真似て、そのやり方通りに実践する段階です。一方通行にならないように確認しながら、言葉のキヤッチボールを通して、これまで学んできたことを伝えます。ただし、いくら正しいことでも、理論的な理解だけでは人は動きません。実践の姿にこそ感化する力があります。

自分が見本を示してから、ポイントを説明して、新人が実践する機会を提供します。出来たこと、努力が見えたことは認め、褒めることも必要でしょう。他に

も、早めに出動して掃除や整理などの社会的道徳の実践には無言の説得力が宿ります。守破離の「守」の段階です。

第三段階 伝え方を見直す

心を尽くして説明しても、うまく伝わらないことがあります。そのような時に自分の心づかいを見直すのがモラロジーの特色です。一方的ではなかったか。共感的な態度で接することができたか。これまでのやり方を発展させて自分なりに工夫する守破離の「破」の段階です。

第四段階 一人ひとりと共に進む

関わりを重ねるうちに、はじめに模範にした型から離れて自分のやり方が身についてきます。たとえ自分流のやり方が確立しても、次の基本は欠かせません。それは、相手の意思を確認すること、見守り励まし勇気づけること、手に負えないことは他人の判断を仰ぐことです。これが守破離の「離」の段階です。

このように、モラロジーの実践は人を育てる関わり合いのなかで進みます。関わり方で迷う時は、自分のそばで助けて欲しい人のことを思い出せば「習」自ずと振る舞い方は想像できるはずです。